

1 開催日時

平成27年6月8日(月) 14:30～16:00

2 開催場所

東別館 特別中会議室

3 出席者

(1) 委員(13名)

赤星委員、有馬委員、井上委員(会長)、内委員、榎本委員、大前委員、鬼塚委員、瀬戸山委員、藤安委員、三原委員、向段委員、柳井田委員、吉見委員

(2) 事務局(9名)

環境局長、清掃部長、リサイクル推進課長、廃棄物指導課長、清掃事務所長、北部清掃工場長、南部清掃工場長、リサイクル推進課庶務係長、同課ごみ減量係長

4 会次第

1 開 会

2 新任委員の紹介

3 当局職員の紹介

4 議 事

(1) 報告事項

①平成26年度本市におけるごみ・資源物の排出量について

②平成27年度一般廃棄物処理実施計画について

③平成27年度清掃部事業概要について

④鹿児島市一般廃棄物処理基本計画の改訂について

(2) その他

5 閉 会

5 報告事項の概要

(1) 報告事項

① 平成26年度本市におけるごみ・資源物の排出量について

発言者	発 言 内 容
委員	もえるごみが増えた点に関し、事業者が持ち込んでいる可能性がある。業種によっては産廃に区分される可能性があるので、確認したい。
事務局	小売店、スーパーの食物残渣を受入れていた堆肥化施設が、太陽光発電施設となり、堆肥化施設がオーバーフローして、清掃工場に持ち込まれたということである。産廃かどうかということでは、一般廃棄物であるということで確認をとっている。

発言者	発言内容
委員	もやせるごみの内、事業者が出すもので堆肥化されているのはどのくらいあるか。
事務局	我々の統計は工場に持ち込まれる分を分析している。事業所に調査は出来ていない。
委員	事業所のごみと一般家庭のごみの行くところが違うと考えている市民の方が大勢いるのに驚く。皆さんに共通理解を持って欲しいと思う。
事務局	事業所のごみ、家庭のごみの行方について、子ども向けの冊子、事業所向けの冊子の他、もちろん家庭向けにも、いろいろ啓発している。今後も意を用いたい。
委員	ごみの排出量は、26年度は特殊な理由で増えたのか。今後も続くのか。資源物は減っているが、この傾向が続くのか。見通しはどうか。
事務局	ごみの見通しというのは、事業所の活動であるとか、家庭の消費状況であるとか、景況にも左右される。予測は困難かと思う。
委員	粗大ごみは、23年10月から有料化で、確かに大きく減っているが、その後は増えてきている。一般によく言われる慣れである。有料化のある意味の限界があると思うが、分析はどうか。
事務局	これについては、北部清掃工場とも連携をとって分析をしているが、市に収集を依頼すれば有料となるものが、一定量までは無料で処理できる直接搬入にシフトしたのではないかと考えている。
委員	粗大ごみを有料化したというのは、回収にお金がかかるから有料化したのか。
事務局	有料化というのは、一つは費用負担の公平というのがある。それと、ごみの減量化、排出抑制である。
委員	今回のごみの排出の費用負担というのも、粗大ごみの有料化と同じ目的で減量化と公平化ということだと思うのだが、持込みだけが無料となると、問題が出てくるのではないか。
事務局	そういう点が危惧されるという面はある。今後検討していきたい。

② 平成27年度一般廃棄物処理実施計画について

③ 平成27年度清掃部事業概要について

(一括説明及び一括協議)

発言者	発言内容
委員	<p>両清掃工場での発電とバイオガスこそ資源化の最たるものである。日本ガスにガスを全量売るという話であるが、発電した方がガスをとるより付加価値が高いので、いずれ日本ガスと共同会社でもいいので市が関与できるようにしていただきたい。</p> <p>また、発電だが、両清掃工場に設置されているが、年間の設備稼働率はどのくらいか。</p>
事務局	<p>全休炉と言って炉を止めて整備しないといけない期間が2週間ほどある。この期間は、タービン発電機を停止するが、それ以外については、概ね順調に運転している。稼働率は、2炉運転の場合は、ほぼ100パーセントだが、1炉運転になると発電機の定格出力に対して5割から6割程度の出力になる。</p>
委員	<p>発電設備の稼働率を上げることは直に利益につながる。ごみ処理でなく、未利用有機資源の活用ということで、大いに力を入れていただきたい。</p>
事務局	<p>バイオガス施設は全国的にうまく稼働している状況だが、発電が多く、ガス事業は全国的にも例が少ない。今回、本市は、隣に民間のガス事業者が立地しているという条件の中で、電気より市民にごみの資源化の効果が分かりやすく、費用面でもガス事業の方に利があると考えている。バイオガス施設からの供給割合は、日本ガスの全市的なシェアの5パーセント未満である。共同事業というところまで発展できるかという点については検討していない。</p>
委員	<p>バイオガス施設のネックになるのは、原材料がきちんと確保できるかということではないか。産廃を受け入れることができるようにしておくのも一つの戦略ではないか。</p>
事務局	<p>バイオガスの材料だが、生ごみは、事業系の一般廃棄物であり、産業廃棄物ではないので、南部清掃工場でも事業系の生ごみが受け入れられている。計算すると日量60トンの生ごみあるいは紙ごみ等は十分確保できる。当然、生ごみも減らしていかないとはいけませんが、減らしていても十分に60トンは確保可能であり、事業系の生ごみも入れた形で検討している。</p>

発言者	発言内容
委員	<p>廃食用油がリサイクルされている。町内会で取り組んでいるが、全市では大体どのくらい活動があるのか。</p>
事務局	<p>26年度で、廃食用油の分については、団体の数としては63団体が実施している。量は、8,371リットルとなっている。</p>
委員	<p>一般廃棄物処理実施計画における処理量の算出根拠は何か。年度ごとの目標に達しない状況が続くと、全体の目標に達しない可能性が出てくるが、そこはどのように埋めようとしているのか。</p>
事務局	<p>一般廃棄物処理基本計画は、長期計画を5年ごとに見直すことになっているが、その時に見通した、人口の推計とか、直前のごみ量の実績とか、政策の効果とかを加味して10年間分の計画を作り、その数値を使っている。</p> <p>取組としては、実績が目標に到達しなければ、その分少し頑張って減らそうというということになるのだが、目標値は、今のところは計画から持ってくる形になる。</p>
委員	<p>目標は変えないで、期待としては27年度には、目標を大きくクリアしたいということか。</p>
事務局	<p>そうである。ただ、目標をクリアできていないのが実情である。目標との乖離が広がっている。</p>
委員	<p>何か大きな対策を立てないといけない。それが、ひとつは有料化ということであろうが。資源化量は、どのくらい乖離が出ているのか。</p>
事務局	<p>資源化量は、26年度の目標が36,952トンに対して、実績が36,268トンで、684トン足りない。</p>
委員	<p>生ごみ処理機の補助について、今年度、電気式が減らされている。ダンボールコンポストもいいのだが、使い勝手はそれぞれなので残していただきたい。要望する。</p>
委員	<p>事業としては素晴らしい内容だと思うが、市民にどこまで浸透して、こういう事業をやらないといけないという風に思っているのだろうか。ごみ処理はただではなく、税金が使われているという認識から入り込んでいけないだろうか。特に、廃棄物の不法投棄等の監視パトロールとか、市民一人ひとりの自覚の問題ではないかと思った。実施している側とし</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>て、市民の意識を感じ取ることができるか。</p> <p>廃棄物監視指導員設置事業は、監視指導員が6名体制で、年末年始を除く359日間を、朝7時から夜9時15分まで監視パトロールを行っている。不法投棄に関しては、26年度は年間240件の発見件数がある。ほとんどが一般廃棄物で、大規模な不法投棄はない。例えば、ある大学の近くでは、4月の転入、転出のときには、家電製品、家具があちこち捨てられており、モラルが守られていないという状況がある。</p> <p>市民、事業者、他の機関と連携して情報を交換しながら、リーダーの意識、ボランティアの清掃活動を含めて、市民の清掃活動の意識の温度を高めたい。</p>
委員	<p>大学の卒業時期に、家具や家電が不法投棄されていることについては、大学との連携をお願いしたい。</p>
委員	<p>パトロールしている側に罰則をかける術はない。監視だけで、口頭で注意して、効果はあるものなのか。</p>
事務局	<p>捨てられた物から調査し、投棄原因者が分かれば、その投棄原因者にごみの回収をお願いしている。また、年に何件かは警察の協力を得て、告発、検挙という形もとっている。</p>

④鹿児島市一般廃棄物処理基本計画の改訂について

発言者	発言内容
委員	<p>無作為抽出で、郵送で来たアンケートにきちんと答えを書いて出してもらうのは難しいと思う。インターネットやQRコードを活用して、アンケートに答えたい人が誰でも答えられるような形には出来ないのか。</p>
事務局	<p>無作為に抽出して郵便での回答と考えている。回答率が悪い傾向にあるので、鹿児島市からのアンケート調査とし、調査項目も絞り込んで、催促もさせていただく。</p> <p>市民の意向をある程度把握できる人数ということで3千人としている。ホームページ等にすると、関心のある方、熱心な方の意見が多く抽出されるおそれがある。今回の場合は、一般的なアンケート調査による無作為抽出で、誰に行くか分からないという形で、市民の意向を把握したい。</p>
委員	<p>アンケートと別に、学生向けに大学や、老人会のようなところで回答いただくとか。工夫すると、有益な回答が集まると思う。</p>

発言者	発言内容
事務局	<p>今も、出前トークとか、今年度から町内会とか、老人クラブとかに出向いて説明会を行っており、今回のアンケートとは別に、テーマを絞った内容の意見や自由意見をいただいている。随時行っているなので、また、機会をとらえて行いたい。</p>
委員	<p>アンケートでは、有料化になる可能性があることを示さないで意向だけを聞くのか。</p>
事務局	<p>有料化は、まだ、決まった話ではないので、聞き方は慎重にせざるを得ない。他都市の状況を聞いた上で、その効果を尋ね、その次に「他都市の取組みはどう思いますか。」と問うような表現を考えている。</p>
委員	<p>有料化は、多くの方は反対であると、最初は言う。この審議会としても、反対者が多いだろうということは承知の上で議論して、必要な施策の一つであるということで、提言を出している。アンケートの結果、反対が多いから即やめますという話ではないと思うが、ここは慎重にやっていかなければならない。</p>
委員	<p>税金で運営する以上は、市民の声、納税者の声を聞くということも、必要なステップである。その時に、なるべく多くの方の意見を無作為に聞かないと、賛成の人ばかり聞くとか、賛成でない人の声を重点的に聞くとか、なりかねない。無作為でやるために3千人くらいの人をいろいろなところから選ぶということではないか。</p>
委員	<p>基本計画の改訂は、14年度、20年度、27年度と間が開いてきている。概ね5年との説明だが、どうして間が開いているのか。</p> <p>それから、アンケートの返送先は、鹿児島市なのか。それとも外部か。</p>
事務局	<p>計画改訂のタイミングだが、前回25年のときはやっていないが、これは総合計画と合わせるため人口推計を加味した簡易な改訂であった。計画改訂は、その時々の方針の改訂の重さによって、予算の取り方とかあり、5年おきになっていないような状況である。</p> <p>アンケートの返信用の封筒は、鹿児島市リサイクル推進課宛てとし、その横に委託業者の会社名を入れた封筒でお願いする。</p>